

## 「適性とは」

### 進路指導部

職場実習や実際の就労生活の中で、現場の方から個の適性について問われることがあります。また、進路変更を考える時にも同様なことがあります。

「個の適性を、普遍的なもの、絶対的なものと捉えられること」や「その職種を好きでなければ取り組む事は出来ない」と決めつけられてしまうことが非常に残念です。確かに、職種によっては、苦手（不慣れな職種）なこともありますので、職域に個人差があることは言うまでもありません。

しかし、東学園は個の可能性をひろげ、挑戦していく姿勢を育てていくことを考えています。慣れている職種に関しては、更に磨きをかけて、自信を持って取り組めるように教育し、不慣れな職種については諦めず、段階的に習得していく事を心掛けています。

ですから、我々の考える個の適性とは、現在は決して得意分野ではないが、将来的には可能性があるという信念を持って取り組める範疇のものも含んでいるのです。現場の方が考える適性とのギャップはここにあります。

すんなりと、就労して定着するケースもありますが、大抵は大なり小なり躓くことがあります。その躓きの度に、いわゆる現場の方が考える適性という言葉で片付けていたのでは、職場がいくつ有っても足りませんし、取り組んできた努力も報われることはありません。明らかに、現状では無理があると思われる職種への挑戦は致しません。それは、本人ばかりか家庭へのフラストレーションを募らせるばかりだからです。

ここで、皆さんにご承知置き頂きたいのですが、どちらかと言えば苦手な分野であると思われる領域にも挑戦をすることが、時としてあります。実際に、現三年生の中にも、職種をガラリと変えて一生懸命に頑張っている生徒もおります。正直なところ、進路の方向性を卒業が目の前に迫っている、この時期に変更することに戸惑いはあるでしょう。出来ることならば、我々も初めに目指した方向で突き進むことが出来ればと願ってはおります。しかし、考えている時間はありません。とにかく、東学園の考える個の適性を信じ、その可能性をひろげ、精一杯本人、家庭と我々が協力して道を切り開いていくしかないので。もちろん、ここに「働きたい」という強い意志が無くてはなりません。念のために申し上げますが、何処でも良いから進路先をとといった乱暴なものではありませんので、ご安心下さい。

非常に厳しい社会情勢ではありますが、前向きに個の適性を捉え、今後も柔軟な指導を展開して参ります。